

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	54
基本施策	15	環境の保全	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	1	自然環境の保護・再生		

1 施策の概要

基本方針	貴重な生態系の維持に向け、希少生物や在来種の調査・保護、外来種の移入防止・駆除対策、魚道の確保など、必要な保全・再生に配慮します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	鳥獣保護区や原生林、湿原など自然性の高い地域の保全や魚道、北の魚つきの森の整備など野生動植物の現状を的確に把握しながら生物多様性の保全に配慮し、自然環境の保護・再生に努めている。	鳥獣保護区や原生林・湿原など自然性の高い地域の保全にあたっては、野生動植物の現状を的確に把握するとともに、生物多様性の保全に配慮し、自然環境の保護・再生に努めている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	国内の林業が低迷する中、経営意欲の少ない森林所有者が増加し、森林の荒廃が進み、野生動植物の生息域の減少を招き、人間と野生動物の軋轢が増えたため、人と野生動植物との共生や生物多様性に及ぼす影響を少なくする、持続的な森林経営が求められている。	農地開発や地球温暖化等の影響により、野生動物の生息域が減少し、人間と野生動物の軋轢が増加しており、人と野生動植物との共生や生物多様性の保全に配慮した環境保全が求められている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	環境保全関係各種規制区域面積					
	定義等	自然環境保全地域・鳥獣保護区					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		732ha	732ha	732ha	732ha	732ha
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	鳥獣残渣等処理事業	林務係	2,489	A	継続/現状維持	A
②	有害鳥獣捕獲事業	林務係	4,802	A	継続/現状維持	A
③	猟友会雄武部会運営補助金	林務係	880	A	継続/現状維持	A
④	【再掲】北の魚つきの森環境整備事業	林務係	19,735	A	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	本町の豊かな自然を後世に引き継ぐためには、自然環境の保護・再生が不可欠であり、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策を構成する事務事業により有害鳥獣の捕獲や幌内川流域の環境整備を実施し、自然環境の保護・再生が図られていることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	自然環境や森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受しているため、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	自然環境の保護・再生に係る施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本施策により、自然環境の保護・再生が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
本町の豊かな自然を次世代に引き継ぐためには、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	55
基本施策	15	環境の保全	評価者	住民生活課長 淡路至尊
単位施策	2	地球環境保全対策の推進	責任者	産業振興課長 横田和幸

1 施策の概要

基本方針	地球環境保全意識を啓発するとともに、公共部門が率先してクール・ウォームビズやグリーン購入など具体的な行動を実践し、まちぐるみの取り組みにつなげます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	普段の生活の中で気軽に実践できる環境対策について、行政が率先して行動し、住民の環境意識高揚を図った。	住民に対しては、地球温暖化につながるCO2の削減を呼びかけるとともに町民植樹祭を行い、緑化環境の保全に努めるとともに、行政においてもクールビズや節電に努め、閑居保全に寄与している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	小さな行動の積み重ねが、地球規模の環境保全に繋がることを再認識し、まちぐるみでの環境保全運動に広げていくことが求められている。	住民が気軽に取り組める環境保全やCO2削減に伴う活動の紹介を行い、まずは、学校、職場、自治会といった関係機関から、やがて全時的な取り組みに広げる活動が必要と思われる。

2 基本施策指標

指標1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】みどりと親しむ町民のつどい	林務係	1,124	A	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	環境保全については、先ずは行政が率先して行動し、住民に意識の高揚を図らなければならない。
② 有効性	A	グリーン購入やクールビズ・節電等行政が取組むことが、住民の意識を植え付ける意味において、有効である。
③ 効率性	A	グリーン購入など過度な財政負担にならぬよう、効率を図った。
④ 公平性	A	良好な環境を造り出し、それを享受することは、全住民の義務及び権利である。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、環境保全に係る意見については、可能なことから対応している

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
クールビズや節電等に努めるとともに町民植樹祭を実施し、町民を巻き込んだ取組みを行なった。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
行政が行なう施策等を引き続き取組みながら、住民が気軽に実践できる環境対策の事例の啓蒙に努めることが必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	56
基本施策	15	環境の保全	評価	住民生活課長	淡路至尊
単位施策	3	景観形成・環境美化・公害防止の推進	責任者	保健福祉課長	山崎佳之

1 施策の概要

基本方針	魅力的な景観づくりに向けて、環境美化活動や花の景観づくり、不法投棄の監視活動などの取り組みを進めます。また、各種公害や健康被害の未然防止に向け、関係機関と連携しながら、監視・指導を強化します。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	景観を損ねるポイ捨てや悪質投棄などが増加しており、関係機関と連携を密にし、環境美化に取り組んでいる。	悪質な不法投棄等は沈静化しているが、相変わらずポイ捨てなどは後を絶たない現状である。関係団体による国道238号の花植活動が展開されている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	所有者不在（不明）の廃屋の存在が、魅力的な景観や安全性を阻害しており、行政が関与出来る範囲でのルール作りが必要である。	町の景観等を損ねている所有者不在（不明）の廃屋の調査が必要である。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	公害発生件数					
	定義等	年間発生件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					0件	
	実績値		0件	0件	0件	0件	
指標2	指標名	不法投棄発生件数					
	定義等	年間発生件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					0件	
	実績値		0件	1件	1件	1件	
指標3	指標名	町が把握する住民の景観形成・環境美化・公害等監視活動の年間開催回数					
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値					4回	
	実績値		-	-	1回	4回	
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	雄武斎場火葬管理等業務委託事業	環境衛生係	1,242	A	継続/現状維持	B
②	雄武斎場車寄せ改修工事	環境衛生係	7,916	A	終了	A
③	戦没者慰霊碑等補修事業	社会福祉係	1,195	A	終了	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	国道238号沿いの花植え・除草等は、町職員団体・自治会・高校等各団体において協働 で取組んでいる。
② 有効性	A	公共施設等の補修や改修を行なうことは、景観形成に寄与している。
③ 効率性	A	公害問題や不法投棄などは、関係機関と協力しながら監視体制の強化を図りながら対応し ている。
④ 公平性	A	景観形成や環境美化は、全ての住民が受益対象である。
⑤ 町民意見の反映	B	自治会長会議や地区別懇談会などで提出される意見や要望は、可能な限り実践するよう努 めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
花植えやゴミのボランティア活動など環境 美化に関しては一定の成果を上げている。 一方、町の景観を損ねると思われる廃屋の 調査については、さほど進んでいない。	同 左	

今後の方向性



継続/拡充	継続/拡充	
環境美化に関する啓蒙・啓発活動により一 層取組むとともに今年度施行される「空家 対策特別措置法」に基づき、廃屋に関する 対応を検討していかなければならない。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	57
基本施策	15	環境の保全	評価 責任者	住民生活課長 淡路至尊
単位施策	4	ごみ・し尿処理の推進		

1 施策の概要

基本方針	ごみの適正処理体制の確立と、容器包装ごみの適正分別排出での資源化率向上を進め、埋立ごみの減量化により最終処分場の延命化につなげます。また、3Rを推進し、環境にやさしく、ごみを出さないライフスタイルを拡大していきます。し尿については、適切な処理体制を維持するとともに、関係市町村とともに、長期的な処理のあり方について協議を進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	ごみの分別収集については、一定の理解が得られ再資源化による減量が図られているが、し尿については、西紋5市町村で設立した組合施設の老朽化が進んでいる。	ゴミの分別収集については、住民にも浸透し、再資源化による減量化が図られております。し尿については、西紋別衛生組合施設の老朽化が著しく、今後の処理方法について5市町村にて協議しているところである。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	最終処分場の延命を図るため、さらなるごみの減量化推進と焼却施設の再稼働について検討する必要がある。また、し尿処理体制の早急な計画確立が求められている。	最終処分場の延命化を図るため、中雄武の焼却処理場の再稼働の提案を行なったが、地元自治会の同意を得られていない。し尿については、下水道におけるミックス事業を検討しているが、未だ西紋別衛生施設組合の基本方針が定まっていない。

2 基本施策指標

指標1	指標名	最終処分場の年間埋立量					
	定義等	年間計画埋立量の維持					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		1,632m ³ /年	1,599m ³ /年	1,314m ³ /年	1,311m ³ /年	1,500m ³ /年
指標2	指標名	ごみリサイクル率					
	定義等	総廃棄物に対する資源ごみの割合の向上					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		23.7%	23.7%	24.1%	23.1%	30.0%
指標3	指標名	1人1日当たりの家庭ごみ排出量					
	定義等	ごみ総収集量の減少					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		848g	804g	783g	753g	780g
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	一般廃棄物収集運搬等業務委託事業	環境衛生係	41,314	A	継続/現状維持	A
②	西紋別地区環境衛生施設運営事業	環境衛生係	22,944	A	継続/現状維持	A
③	リサイクル推進事業	環境衛生係	7,148	B	継続/現状維持	A
④	西紋ブロック広域資源ごみ処理事業	環境衛生係	7,939	A	継続/現状維持	A
⑤	廃木材等処理事業	環境衛生係	510	A	継続/現状維持	A
⑥	雄武町廃棄物処理対策事業	環境衛生係	2,640	A	継続/現状維持	A
⑦	し尿等処理手数料助成事業	環境衛生係	1,903	A	継続/縮小	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	環境保全のため、町のゴミ収集及びし尿処理については、行政の使命である。
② 有効性	A	ゴミの分別により、再資源化が図られている。
③ 効率性	A	ゴミの分別に合わせた収集・処理体制が確立されている。
④ 公平性	A	ゴミの排出は、有料化としており、受益者負担となっている。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場を設けてはいないが、町民からの意見・要望を取り入れながら措置を講じている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
分別収集が定着し、再資源化によるゴミの減量化が進んでおり、最終処分場の延命化が図られている。本年度、急激に上昇となったし尿処理料の町民負担を軽減するため一部助成を実施した。	同 左	

今後の方向性



継続/拡充	継続/拡充	
現在、生ごみについては、他町（興部）に搬入しているが、これらを含めて将来的な処理体制の計画を策定する必要がある。また、し尿についても、処理施設・方法について早急に方針を決定しなければならない。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	58
基本施策	15	環境の保全	評価	産業振興課長	横田和幸
単位施策	5	エネルギーの有効利用	責任者	町有施設整備室長	宇野安久

1 施策の概要

基本方針	省エネルギー機器の利用、照明や空調の適正管理など、省エネルギーを啓発するとともに、太陽光、農林漁業有機物資源のバイオ燃料（バイオエタノール、木質バイオマス等）など、再生可能エネルギーの活用について検討を進めます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	町有施設の省エネ改修は一定の整備が図られたところであるが、原発事故等を契機として多様なエネルギーに、国民の関心が高まっている。	太陽光などの再生可能エネルギーについて、国・北海道・他市町村における補助金制度の調査や北電等への売電状況の調査を行った。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	風水力・太陽光などの再生可能エネルギーの利用促進が叫ばれており、地域に最も適したエネルギー開発を進める必要がある。	太陽光などの再生可能エネルギーの活用について、収集した資料を基に、早急に検討を進める必要がある。			

2 基本施策指標

指標1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	新エネルギー普及促進事業	商工観光係	0	B	継続/現状維持	B
②	【再掲】太陽光発電システム導入事業	農務係	0	B	継続/現状維持	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	地球温暖化の防止や新たな雇用の創出など、地域の活性化にも寄与するものであり、必要な施策である。
② 有効性	C	エネルギーの有効利用について、施策の推進がやや弱かったところがあり、今後は施策の有効性を高めていく必要がある。
③ 効率性	C	エネルギーの有効利用について、施策を構成する事務事業の展開がやや弱かったところがあり、今後は施策の効率性を高めていく必要がある。
④ 公平性	A	エネルギーの有効利用については、町民を対象としていることから、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	C	現段階では、特に町民の意見を反映することがない。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
エネルギーの有効利用について、取組みが弱かった面があり、事業の進め方について見直しを行う必要がある。	同 左	

今後の方向性



継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
エネルギーの有効利用については、必要な施策であることから継続することとするが、内容の見直しを行いながら進めていく必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	59
基本施策	16	交通体系の整備	評 価 責 任 者	建設水道課長	渡邊 孝司
単位施策	1	道路環境の向上		産業振興課長	横田 和幸

1 施策の概要

基本方針	生活環境の改善や産業の振興に結びつく路線の維持・確保を図ります。また、除雪や路面凍結対策、堆雪対策、吹雪対策など、冬の安全対策を強化するとともに、道路橋の長寿命化のための修繕を順次進めます。また、歩道や交通安全施設の設置、沿道景観づくりなど、人と環境にやさしい道づくりを進めます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	道路網については、国道238号沢木地区の整備要望や道道美深雄武線の整備及び町道、農道、林道の整備が進められているが、特に平成23年度の過疎対策事業費で既存町道の改修整備により路線の維持・確保が図られている。	道路網については、国道238号沢木地区の整備要望や道道美深雄武線の整備及び町道、農道、林道の整備が進められているが、既存道路の改修整備による安全な道路の確保が図られている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	国・道と連携しながら、計画的な整備を更に進めるとともに、除雪や凍上路面などの冬道対策を一層充実していく必要がある。	国・道と連携しながら、計画的な整備を進めるとともに、道路橋など道路構造物の長寿命化対策が必要である。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	町道延長					
	定義等	認定された町道の長さ					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		269.4km	269.4km	270.3km	270.3km	271.8km
指標2	指標名	町道改良率					
	定義等	認定された町道の長さの中で砂利等で改良された割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		80.60%	80.60%	80.60%	80.70%	80.70%
指標3	指標名	町道舗装率					
	定義等	認定された町道の長さの中で舗装改良された割合					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		59.84%	60.00%	59.90%	60.00%	60.20%
指標4	指標名	除雪の満足度					
	定義等	アンケート調査					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		39.40%	未調査	未調査	未調査	50%
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	臨港道路排水管路清掃事業	水産係	3,640	A	終了	A
②	除雪事業	土木管理係	87,781	A	継続/現状維持	A
③	道路台帳補正更新事業	土木管理係	1,069	A	継続/現状維持	A
④	町内小工事業	土木管理係	6,064	A	継続/現状維持	A
⑤	町道排水管路清掃事業	土木管理係	5,098	A	継続/現状維持	A
⑥	町道等維持業務委託事業	土木管理係	4,584	A	継続/現状維持	A
⑦	町道防雪柵設置事業	土木管理係	1,900	A	継続/現状維持	A
⑧	町道路面清掃事業	土木管理係	2,106	A	継続/現状維持	A
⑨	町道等除草作業他環境保全事業	土木管理係	5,616	A	継続/現状維持	A
⑩	ロードヒーティング改修事業	土木管理係	12,852	A	終了	A
⑪	町道橋修繕事業	土木管理係	5,454	A	継続/現状維持	A
⑫	町道歩道整備事業	土木管理係	29,376	A	継続/現状維持	A
⑬	町道防護柵改修事業	土木管理係	4,838	A	終了	A
⑭	新日の出線道路改修事業	土木管理係	31,028	A	継続/現状維持	A
⑮	幌内東町幹線及び幌内幹線道路改修事業	土木管理係	37,724	A	継続/現状維持	A
⑯	(仮称) 錦町海岸線道路整備事業	土木管理係	3,877	A	継続/現状維持	A
⑰	オコツナイ線道路改修事業	土木管理係	9,601	A	終了	A
⑱	町道舗装事業	土木管理係	5,832	A	継続/現状維持	A
⑲	町道排水改修事業	土木管理係	10,800	A	継続/現状維持	A
⑳	道路ストック総点検事業	土木管理係	31,158	A	継続/現状維持	A

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	安全で快適な車両走行と冬道の通行確保など道路環境の向上を目指すことは、行政の使命である。
② 有効性	A	既存道路の整備・改修など道路環境の向上が図られ成果が得られている。
③ 効率性	A	再生材等を使用し経費縮減したことで、財政負担の軽減が図られている。
④ 公平性	A	不特定多数が利用する施設整備であり、公平であると判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	町民や自治会などからの要望意見を聴取し、施設整備に反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直しすることが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
計画通り事業を実施し、道路環境の向上を図り通行の利便性の確保するための措置を講じた。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
快適な通行を確保するための、道路整備や除雪による安全対策を強化する施策の継続、現状維持が必要である。	同 左	

* 今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	60
基本施策	16	交通体系の整備	評 価 責 任 者	財務企画課長 佐々木幸博	
単位施策	2	公共交通の維持・確保			

1 施策の概要

基本方針	町内や近隣市町村へのアクセス手段として、バス路線を維持・確保するとともに、オホーツク紋別空港からの空路の利用促進を図ります。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	自家用車の普及・人口減少等に起因する乗車人数の減少により厳しい状況にある運行環境に対し、地域生活に必要な移動手段であるバス路線の維持確保のため、2路線のバス事業者に対し運行経費の補助を行っている	地域生活に必要な移動手段であるバス路線の確保のため、2路線のバス事業者に対し運行経費の補助を行っている。また、地域唯一の空路である紋別空港の紋別羽田直行便の維持確保に向け、利用者に対し運賃補助を行い、H26年度は通年運行が実現した。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	公共交通は他に移動手段を持たない高齢者や児童・生徒にとっては不可欠な移動手段であり、今後、高齢化社会に向け公共交通を地域の足として確保しておくことが求められる。また、本町から1時間圏内にあるオホーツク紋別空港の羽田直行便の維持確保も重要課題となっている。	今後、急速な高齢化の進行に伴い、本町においても運転人口の減少により、交通弱者の増加が予想されることから中長期的に地域における移動手段の確保が重要な課題となる。また、紋別空港の直行便通年運行の維持確保については、今後、関係市町村による広域的な取組が課題となる。

2 基本施策指標

指標1	指標名	民間バスの路線数						
	定義等	北紋バスと宗谷バスの現行路線の維持						
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値	2路線	2路線	2路線	2路線	2路線	2路線	2路線
	実績値	2路線	2路線	2路線	2路線	2路線	2路線	
指標2	指標名	羽田紋別航空便						
	定義等	羽田紋別直行便運行期間						
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						通年	
	実績値	通年	通年	9カ月	9カ月	9カ月	通年	
指標3	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	生活交通路線維持確保事業	企画調整係	12,891	A	継続/現状維持	A
②	雄武町オホーツク紋別空港利用促進事業	企画調整係	13,229	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	生活基盤・生活環境の充実のため、通学、通院、買物等を目的とするバス路線や地域振興及び観光振興に寄与する空路を維持確保することは行政の責任である。
② 有効性	A	目標どおりバス2路線の維持・確保及び紋別羽田直行便の通年運行が実現している
③ 効率性	A	運行回数の維持のため、必要最低限の補助支援を行っており、補助支援を行わない場合、減便となり代替対策を講じることとなり、財政支出の増崇が懸念される。
④ 公平性	B	現状では、全町民に受益はないが、等しく利用可能な公共交通機関であり、通学、通院、買物や観光等を目的として利用する町民等の移動手段を確保することについては、理解が得られると判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	町民からの運行に関する要望等については、速やかにバス事業者に伝え、改善等の措置を講じているまた、空路についても、地域要望を受け止める期成会を組織している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
生活交通路線の維持のための補助支援を行うことで、目標とするバス2路線の維持確保及び紋別羽田直行便の通年運行が図られている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
既存のバス2路線の維持確保のため、沿線自治体との協調による補助支援を継続するほか、紋別羽田直行便の通年運行に係る利用促進の取組を継続する。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	61
基本施策	17	上・下水道の整備	評価責任者	建設水道課長 渡邊 孝司
単位施策	1	水道の安定供給		

1 施策の概要

基本方針	水源地域の環境整備などにより、水質を保全するとともに、施設の更新を計画的に進めます。また、日常業務の効率化などにより、安定した水道事業を運営します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	水供給のための老朽化した浄水場施設設備の更新と未整備地区の配水管の増設及び計量法に基づく量水器の更新、更には、配水管漏水の修繕等を実施し一部漏水が減少したものの、未だ漏水による有収率が低い状態である。	安全・安心な水供給のための老朽化した浄水場施設設備の更新や老朽配水管の整備と配水管漏水の修繕等を実施し一部漏水が減少したものの、未だ漏水による有収率が低い状態である。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	安心安全な水供給のための浄水場施設設備の更新、老朽配水管の更新、検定期間満了量水器の更新及び簡易水道事業の安定的・効率的運営への取り組みと有収率向上のための漏水調査等の取り組みが必要である。	安心安全な水供給のため、浄水施設及び老朽配水管の更新や、簡易水道事業の安定的・効率的運営への取り組みと有収率向上のための漏水調査等の取り組みが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	水道普及率					
	定義等	水道普及率					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		93.10%	92.72%	93.07%	93.37%	95.00%
指標2	指標名	水道有収水率					
	定義等	水道有収水率					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		63.20%	67.03%	77.47%	84.53%	70.00%
指標3	指標名	水道の満足度					
	定義等	アンケート調査					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		50.30%	未調査	未調査	未調査	70%
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	簡易水道事業量水器更新事業	水道係	13,435	A	継続/現状維持	A
②	浄水場電気機械設備更新整備事業	水道係	8,100	A	継続/現状維持	A
③	簡易水道事業管路漏水調査事業	水道係	1,210	A	継続/現状維持	A
④	弁篋補修他小工事事業	水道係	1,048	A	継続/現状維持	A
⑤	雄武地区配水管更新事業	水道係	52,596	A	継続/現状維持	A
⑥	幌内浄水場改修事業	水道係	16,632	A	継続/現状維持	A
⑦	沢木地区配水管更新整備事業	水道係	13,284	A	終了	A
⑧	新日の出団地配水管整備事業	水道係	10,930	A	終了	A
⑨	老朽消火栓更新事業	水道係	4,320	A	継続/現状維持	A
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民生活や産業活動に必要な不可欠な水の安定供給を確保することは、行政の使命である。
② 有効性	A	水質の維持と安定供給が確保され成果が得られている。
③ 効率性	A	水質を維持し安定供給を目的とした浄水施設の計画的整備が図られたことは、事業運営上効率的であり、財政負担の軽減が図られた。また、漏水調査により有収率が向上し、財政支出の軽減が図られる。
④ 公平性	A	町民の大半が受益対象であり、区域内における安定供給の確保については、公平である。
⑤ 町民意見の反映	A	町民からの意見を反映し、水の安定供給、水質の維持に取り組んでいる。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
水質の安定維持・供給や水道事業の安定運営など、政策目標達成に効率的な施策を実施しているが、有収率向上に向けての更なる取組みが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
良好な水を安定供給するため、老朽管渠や浄水設備の更新を進めるとともに、安定した水道事業運営のため有収率向上を目的とした、漏水調査と修繕を継続する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	62
基本施策	17	上・下水道の整備	評価 責任者	建設水道課長 渡邊 孝司
単位施策	2	下水道の普及促進		

1 施策の概要

基本方針	公共下水道の整備と施設の適切な管理・更新を進めるとともに、その必要性や有効性を啓発し、水洗化を働きかけます。また、日常業務の効率化などにより、安定した公共下水道事業を運営します。また、合併処理浄化槽の設置、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進するとともに、既設の浄化槽の適切な維持管理を促進します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	浄化センター機器更新は、機能確保のため更新計画に基づき実施し、未整備地区の解消は、管渠整備計画に基づき実施している。また、公共下水道区域以外の地区については、合併処理浄化槽設置事業で住民生活課が平成24年度から実施予定である。	浄化センター機器更新は、機能確保のため更新計画に基づき実施し、未整備地区の解消は、管渠整備計画に基づき実施している。また、公共下水道区域以外の地区については、合併処理浄化槽設置事業により実施している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	浄化センター機器更新整備は、更新計画通り実施されているが、今後も機能停止を未然に防ぐため、更新計画更には長寿命化計画に基づく実施が求められ、また、下水道整備は、整備計画に基づき実施しているが、下水道未整備地区の整備が課題である。	浄化センター機器更新整備は、更新計画通り実施されているが、今後も機能停止を未然に防ぐため、長寿命化計画に基づいた実施が求められ、また、下水道整備は、整備計画に基づき実施しているが、下水道未整備地区の整備が課題である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	下水道人口普及率						
	定義等	雄武町内人口の中で下水道を利用できる人口の割合						
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値	73.1%（H18）	74.33%	74.78%	74.48%	74.74%	75.06%	77.00%
指標2	指標名	水洗化率						
	定義等	下水道を利用できる人口の中で水洗化している人口の割合						
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値	78.7%（H18）	80.36%	81.30%	80.86%	85.30%	86.42%	82.00%
指標3	指標名	下水道の満足度						
	定義等	アンケート調査						
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値	42%（H18）	未調査	44.90%	未調査	未調査	未調査	60%
指標4	指標名	合併浄化槽の件数						
	定義等	合併浄化槽補助延べ件数						
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値	—	—	—	8	8	6	35基
指標5	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年 度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	浄化槽整備事業	環境衛生係	8,954	A	継続/現状維持	A
②	雄武浄化センター機器分解整備事業	下水道係	5,940	A	継続/現状維持	A
③	雄武公共下水道事業	下水道係	82,379	A	継続/現状維持	A
④	雄武公共下水道コンポスト施設機器分解整備事業	下水道係	2,430	A	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	公共用水域の水質保全並びに快適な住環境を確保することは、行政の使命である。
② 有効性	A	水洗化率は毎年度上昇しており、施策として成果が得られている。
③ 効率性	A	既存機器の定期的な整備により、延命化を図ることで、経費削減を図り財政負担の軽減を図られている。
④ 公平性	A	下水道整備区域内の住民から整備費の一部として受益者負担金を徴収しており、公平性を保っている。
⑤ 町民意見の反映	A	町民からの聞き取り調査や意見を反映し、施策を進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
公共用水域の水質保全と快適な居住環境を保全し下水道事業の安定運営に効果的な施策を実施している。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
下水道未普及地域の解消と処理施設の機能停止を未然防止のために必要な施策であり、今後も継続、現状維持が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	63
基本施策	18	住環境の整備	評価責任者	町有施設整備室長 宇野 安久
単位施策	1	良好な住宅・宅地の供給		財務企画課長 佐々木 幸博

1 施策の概要

基本方針	住宅ニーズに対応するため、公営住宅の計画的な建替えと適切な維持管理を進めます。また、住宅取得希望者が円滑に住宅を取得できるよう、国・道・町の支援制度の利用を促進します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	公営住宅長寿命化計画に基づいた建替えや修繕等適切な維持管理を実施しており、民間住宅に対しては住環境の整備に向けた支援施策を実施している。移住促進対策としては体験に向けた情報や体験住宅の提供、町有地の無償貸付を行った。	公営住宅長寿命化計画に基づき老朽狭隘住宅団地の建替えや既存団地の長寿命化を図るための計画的改修を実施している。民間住宅に対しては住環境整備に向けた支援施策を実施している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	町民の住宅ニーズや住宅需要への対応のため、更新期を迎えつつある老朽・狭隘化した公営住宅の建替え計画の推進と新たな公的賃貸住宅の整備についての取り組みが必要である。また、定住等の施策目的達成に向け民間の住環境整備や移住希望者に対する支援制度の充実と啓蒙・活用の推進が求められている。	町民の住宅ニーズの変化により、単身者向け住宅の不足が顕著となっていることから、単身者向け住宅の整備について取り組みが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町営住宅管理戸数					
	定義等	町営住宅管理戸数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		283戸	287戸	289戸	288戸	281戸
指標2	指標名	町営住宅建設戸数					
	定義等	町営住宅建設戸数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		32戸(H21~23)	4戸	10戸	7戸	38戸(H25~29)
指標3	指標名	お試し暮らし住宅入居者					
	定義等	お試し暮らし事業の延べ利用件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		7件(H21~23)	10件(H21~24)	7件(H25)	13件(H25~26)	15件(H25~29)
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	移住促進対策事業	企画調整係	343	A	継続/現状維持	A
②	町有施設整備事業	管財係	7,074	A	継続/現状維持	A
③	公営住宅整備事業	建築係	135,239	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民に対する住宅供給施策として、老朽・狭隘化した公営住宅の建替のための事業であり、妥当である。
② 有効性	A	建替事業の推進により、老朽・狭隘住宅団地の解消及び安全性の確保が図られ、事業として成果が得られている。
③ 効率性	A	良好な住環境の確保及び地域の安全性の確保に向けた施策の実施により、将来的財政負担の軽減が図られたことは、効率的と判断する。
④ 公平性	A	建替事業により、良好な住環境が確保される施策であり、公平であると判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	良好な住環境の確保及び地域の安全性の確保の向上に取り組むことは当然である。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
老朽・狭隘な住宅の解消、良好な住環境及び地域の安全性の確保に向けた施策が実施されている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
公営住宅ストックの効率的かつ更新整備を行い、多様な住宅ニーズや公営住宅需要への的確な施策であり、継続現状維持が必要です。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	64
基本施策	18	住環境の整備	評価責任者	町有施設整備室長 宇野 安久
単位施策	2	良好な住生活の確保		税財管理課長 山崎 佳之

1 施策の概要

基本方針	バリアフリー化や耐震性能、省エネルギーなどの住宅の基本性能向上による、良好な住まいづくりに向けた町民の取り組みへの支援を進めます。また、お試し暮らしの利用を促進するとともに、公共・民間による宅地・住宅の分譲・賃貸に関する情報の集約・提供、コーディネートのおしきづくりを進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	快適住まいづくり促進事業等による住宅のバリアフリー化を進めている。また、建替計画が無く長期的な活用を図るべき住宅について、計画的な改修修繕を実施しているほか、地震時に避難所となる町有施設の耐震性の確保に向けた事業を実施している。	公営住宅については、長寿命化計画により計画的な建替、改修修繕を取り進めています。民間住宅では、快適住まいづくり促進事業により、住宅の基本性能向上による良好な住環境確保に向けた事業を実施している。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	建替計画のない公営住宅等について耐久性向上を目的とした長寿命化型改善や居住環境の向上を目的とした施策の一層の取り組み及び町有施設の耐震性確保に向けた取り組みが必要である。	長寿命化計画により長寿命化型改善や居住環境の向上を目的とした施策の一層の取り組みが必要である。また、空家等について、市街地及び郊外において散見している中、空家等の利活用についての取り組みも必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	住宅改修件数					
	定義等	快適住まいづくり促進事業の延べ利用件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値		50件	50件	50件	50件	300件(H23~27)
	実績値		60件	89件	88件	86件	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	職員住宅改修工事業	管財係	14,213	A	継続/現状維持	A
②	雄武町快適住まいづくり促進事業	建築係	59,791	A	継続/現状維持	A
③	既設町営住宅団地環境整備事業	建築係	14,958	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	良好な住環境の維持、良質な居住環境の確保、町有施設の安全性の確保のための事業であり、妥当である。
② 有効性	A	町有施設の安全性の確保及び居住環境の向上が図られ、事業として成果が得られている。
③ 効率性	A	耐久性の向上等良好な住環境が確保されること及び町有施設の安全性の確保に向けた施策の実施により、将来的財政負担の軽減が図られたことは、効率的と判断する。
④ 公平性	A	安全で安心な住環境を確保することについては、定住対策、子育て支援、高齢者の居住確保に向けた施策であり、公平と判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	耐久性の向上等安全性の確保及び良好な住環境の確保に向け取り組むことは当然である。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
長寿命化計画により、公営住宅の建替、改修修繕を実施し、耐久性の向上を図り良好な居住環境の確保に向けた施策が実施されている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
耐久性や居住環境の向上及び施設の安全性の確保に向けた施策であり継続現状維持が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	65
基本施策	18	住環境の整備	評価責任者	建設水道課長 渡邊 孝司
単位施策	3	公園・緑地の充実		

1 施策の概要

基本方針	わが町の公園・緑地の魅力を保てるよう、町民と協働しながら、芝や樹木の手入れ、施設・設備の補修など、適切な管理運営を進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	公園・緑地は、健康づくりや憩いの場として、また、住民や来訪者の交流の場として、更には、災害時の避難場所として重要な機能を担っている。また、公園施設等の維持管理についても適正に行っている。	公園・緑地は、健康づくりや憩いの場として、また、住民や来訪者の交流の場として、更には、災害時の避難場所として重要な機能を担っている。また、公園施設等の維持管理についても適正に行っている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	公園・緑地の利用者が、憩いの場として安全・安心に利用できるために、既存施設の改修や公園施設の将来の改築に係るコスト縮減を図るため、長寿命化計画に基づき老朽施設等の更新を含め維持・管理を実施する必要がある。	公園・緑地の利用者が、憩いの場として安心・快適に利用できるために、既存施設の改修や公園施設の将来の改築に係るコスト縮減を図るため、長寿命化計画に基づき老朽施設等の更新するとともに、維持・管理の万全を図る必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	公園の満足度					
	定義等	アンケート調査					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		52.40%	未実施	未実施	未実施	70%
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	公園維持管理事業	都市計画係	6,723	A	継続/現状維持	A
②	公園等施設遊具修繕事業	都市計画係	626	A	継続/現状維持	A
③	都市公園整備事業	都市計画係	30,681	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	誰もが、安心して快適に利用するための施策であり、妥当である。
② 有効性	A	利用者の快適な利用が環境が図られ、施策の成果が得られている。
③ 効率性	A	維持管理業務を他課所管施設と一括発注するなど、経費削減ができたことは財政負担の縮減が図られている。
④ 公平性	A	多くの公園利用者の安全と快適さを確保することは、公平性の理解が得られると判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	町民からの要望に対し、維持管理で反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
緑豊かな環境を保全し、施設利用者に安全で快適な憩いの場を提供できるような措置を講じている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
都市公園の長寿命化に基づく施設管理や利用者が安心して快適に利用してもらい、緑豊かな公園を保全するために、施策の継続と現状維持が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	66
基本施策	18	住環境の整備	評価	建設水道課長 渡邊 孝司	
単位施策	4	都市計画の推進	責任者	財務企画課長 佐々木幸博	

1 施策の概要

基本方針	限られた財源の中で、真に有効な都市計画事業を実施し、自然環境と調和した魅力ある市街地形成を進めていきます。空き家・空き地の有効活用や、災害予防対策、個性的で美しい景観づくりなどの取り組みを進めるとともに、居住地の明確化により各種行政、郵便・流通等公益サービスの充実に向けた住居表示の調査事業を実施します。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）				【現状】（平成26年度末）
	雄武・魚田地区を都市計画用途地域に指定し、これまで、大通り商店街、旧駅前周辺の一體的整備をはじめ、各種都市計画の施策を進めてきた。また、都市対策事業として2級河川であるオコツナイ川・ボンオコツナイ川の環境整備を北海道と進めている。				雄武・魚田市街地区に都市計画用途地域を指定し、自然環境と調和した市街地形成のため、各種都市計画の施策を進めてきた。また、都市対策事業として2級河川オコツナイ川・ボンオコツナイ川の環境整備を北海道と進めている。
	【課題】（平成23年度末）				
	各種の手法を活用し、住民が安心して快適に生活できる住環境づくりを進めることが求められている。		各種の手法を活用し、住民が安心して快適に生活できる住環境づくりを進めることが求められている。		

2 基本施策指標

指標1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	住居表示調査検討事業	企画調整係	0	D	休止	E
②	雄武町都市計画図修正印刷事業	都市計画係	419	A	継続/現状維持	A
③	【再掲】雄武町都市対策事業	都市計画係	68,592	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	住民が安心して快適に生活するための、まちづくり施策は妥当である。
② 有効性	A	都市計画区域内の住環境の向上が図られており、施策成果が得られている。
③ 効率性	A	都市づくりを長期的な視点での総合的施策であり、基本方針実現に向けた取り組みは効率的である。
④ 公平性	A	住民が安心して快適に生活するための環境づくりで、公平性が確保されている施策である。
⑤ 町民意見の反映	A	都市計画マスタープラン（平成15年策定）策定時の意向調査や住民ワークショップに基づいた施策を展開している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
住環境の整備を進める上で、国や北海道の各種制度を活用し、効果的な施策を実施している。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
真に有効な都市計画事業を実施するとともに、空家、空地対策に取組む必要があることから、施策の継続・現状維持が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	67
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	評 価 責 任 者	住民生活課長	淡路至尊
単位施策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化		建設水道課長	渡邊孝司

1 施策の概要

基本方針	東日本大震災の教訓を踏まえて地域防災計画の改定を進めるとともに、町民・行政職員の防災・危機管理意識を高め、知識・技術を普及します。治山・治水、耐震改修など必要な予防対策事業を進めるとともに、地区や事業所での自主防災組織の育成を急ぎ、災害時要援護者一人ひとりへの個別支援の体制づくりを進めます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	津波を想定した避難訓練を実施し、危機管理意識の高揚を図るとともに、道路・河川の被災箇所については、早急な復旧と二次災害の予防に努めている。	全町を対象とし、年度ごとに区域を決め、23年度より実施していた津波災害を想定した非難訓練を今年度で一通り終了した。ハザードマップを更新した。河岸の損壊等を早急に復旧し、河川災害の未然防止に努めている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	ひとり暮らしの高齢者や障害者などの災害時要援護者の避難体制を確立するための、自主防災組織の構築が求められている。	災害時要支援者の避難体制を確立する自主防災組織の取り組みが遅れている。北海道における河川事業の早期完成と天然河川の改修が求められている。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	防災活動の実践度（5項目平均）					
	定義等	まちづくりアンケート（備品の準備、家具転倒防止対策、家族との連絡方法確認、防災訓練参加、避難場所の確認）					
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						40%
実績値		29.0%					
指標2	指標名	自主防災組織数					
	定義等	組織数 ※防災活動に取り組んでいる自治会も含む					
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						29組織
実績値		1組織	2組織	2組織	3組織		
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	地域ぐるみ防災推進事業	住民活動係	5,008	B	継続/現状維持	A
②	雄武町地域防災計画更新事業	住民活動係	0	C	継続/内容の見直し・変更	A
③	防災行政無線設備等保守点検委託事業	住民活動係	2,484	A	継続/現状維持	A
④	民有林火災予防巡視事業	林務係	600	A	継続/現状維持	A
⑤	町内河川小工事事業	土木管理係	1,999	A	継続/現状維持	A
⑥	オタコムシュベツ川改修事業	土木管理係	5,832	A	継続/現状維持	A
⑦	雄武町都市対策事業	都市計画係	68,592	A	継続/現状維持	A
⑧	【再掲】消防団活性化事業	消防庶務係	3,325	A	継続/現状維持	A
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	河川災害や林野火災といった防災対策や津波災害等の大災害から町民の生命と財産を守るのは行政の使命である。
② 有効性	A	町民や行政職員等の防災・危機管理意識を高め、防災体制の強化を図ることは必要である。
③ 効率性	A	町民とともに津波災害を想定した避難訓練を効率的に実施した。
④ 公平性	A	全ての町民の生命と財産を守るための施策である。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場を設けてはいないが、意見等があれば検討し、反映させることが可能であれば取り入れている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
地域防災計画及び自主防災組織の立上げなどが遅れてはいるが、避難訓練の実施やハザードマップの更新により防災意識の高揚につなげている。また、河川の一部氾濫への対応、異常気象情報野収集に努めたところである。	同 左	

今後の方向性



継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
地域防災計画の策定は急務であり、策定方法の見直しも含め検討する必要がある。また、若手行政職員の災害対策の対応力の向上を図る必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	68
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	評価 責任者	住民生活課長 淡路至尊
単位施策	2	応急体制の強化		

1 施策の概要

基本方針	大災害・有事の際、初動を迅速・的確に対応できるよう、情報伝達や避難、応援要請、医療救護などの応急体制を充実します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	災害時における避難訓練を通じて、情報伝達体制の確立を図っている。	災害における避難訓練時において、行政職員の登庁時間等の把握を行なうとともに、防災行政無線を使った情報伝達の訓練、避難会場での救急蘇生などを実施した。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	災害時における的確な初動体制を確保するための、迅速かつ正確な情報伝達による、情報の共有化を図ることが求められている。	いつ起こるかかわからない災害に対する対応力、家庭における災害対策の備えなど住民周知に努める必要がまだまだある。特に若年層の避難訓練参加率が低調である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	防災訓練の年間実施回数					
	定義等	雄武町総合防災訓練の実施回数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						1回
	実績値		1回	1回	1回	1回	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】地域ぐるみ防災推進事業	住民活動係	5,008	B	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	テロやミサイル攻撃、地震・津波などの自然災害等における情報伝達や避難体制の確立は、行政の使命である。
② 有効性	A	大災害やミサイル攻撃など緊急を要する国からの情報等は、EMネットや防災行政無線を通じて瞬時に町民に周知する体制となっており、有効である。
③ 効率性	A	国等の緊急情報は、防災行政無線等にて瞬時に伝達可能であり、効率的である。
④ 公平性	A	有事や大規模災害の情報伝達や応急体制の確立は、町民の生命・財産を守ることとなる。
⑤ 町民意見の反映	B	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、意見・要望等があれば検討する。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
防災行政無線野整備により、有事や大規模災害時における情報伝達は確立されたところである。また、ハザードマップの更新により本町で想定される津波浸水予想区域を掲載することで安全箇所を明確にした。	同 左	

今後の方向性	継続/現状維持	継続/現状維持
<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>	<div style="text-align: center;"> </div>
防災無線の活用により迅速な情報体制は確保されたものの、応急体制の確立には自治会組織や防災機関等の連携強化を図ることが必要となる。また、情報伝達の主要機器である防災行政無線の定期的な保守点検が必要である。	同 左	
＊今後の方向性の区分 <input type="radio"/> 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止		

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	69
基本施策	19	消防・救急・防災体制の強化	評価	消防署雄武支署長 安本明志美	
単位施策	3	消防・救急体制の充実	責任者		

1 施策の概要

基本方針	町民の防火意識の高揚、救急・救命に関する知識・技術の普及を一層進めるとともに、消防職員・消防団員の育成・確保を図ります。また、平成27年度が期限とされる電波法改正に伴う消防救急無線のデジタル化への対応を急ぐとともに、消防救急車両・資機材・消防水利の計画的な整備・更新を進めます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	近年、災害の大規模化・多様化に加え、少子高齢化の進展に伴うニーズの高まりなど消防を取り巻く環境は大きく変化しており、この状況に迅速かつ的確に対応し、人員・緊急車両・資機材の整備確保に努めている。また、北海道による道北ドクターヘリ事業も開始され緊急搬送体制も強化されている。	近年、頻発する集中豪雨や暴風雪による甚大な自然災害が発生するなか、町民の生命、身体、財産を守るため、迅速かつ的確に対応し、職員の教育訓練、資機材の整備に努めている。また、消防救急デジタル無線の運用が開始され、有効活用することにより、消防団との連携が強化されてきている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	住民の安心・安全をしっかりと守りぬぐためには、限られた人員や資機材を有効活用する消防体制を構築していくことが必要である。また、救急救命士の教育機関についても、医師不足による教育場所が十分確保できないなどの課題があり、救命率の向上を図る観点からもこれらに対処していくとともに、電波法の改正に伴う、消防救急デジタル無線化の整備を推進する必要がある。	災害から住民の安心・安全を守りぬぐためには、限られた人員や資機材を有効活用し、消防体制を構築することが必要であるが、高齢化・過疎化が進む地域の防火・防災対策について若年層職員の教育訓練及び、地域を担う消防団員との連携がいま以上に必要とされる。また、救急救命士の育成にあっても医師不足による教育の場所が十分確保できないなどの課題がある。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	消防団員数						
	定義等	消防団への加入促進						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値		110人	110人	110人	110人	110人	
指標2	指標名	消防水利充足率						
	定義等	地域における消防水利の基準（防火水槽設置数、消火栓数、自然水利等）						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値		100%	100%	100%	100%	100%	
指標3	指標名	救急救命士数						
	定義等	救急救命士資格取得職員数						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）	
	実績値		4人	4人	8人	8人	8人	
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成21年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	消防団活性化事業	消防庶務係	3,325	A	継続/現状維持	A
②	消防職員教育訓練事業	消防庶務係	338	A	継続/現状維持	A
③	消防資機材整備事業	警防係	3,742	A	継続/現状維持	A
④	救急業務体制整備事業	警防係	5,339	A	継続/現状維持	A
⑤	消防施設整備事業	警防係	718	A	継続/現状維持	A
⑥	予防対策資機材整備事業	予防係	457	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民の生命、財産を災害等から守るため、当施策は必要不可欠なものであり、整備の遅れは可能な限り回避しなければならない。
② 有効性	A	消防救急体制、資機材、水利確保については計画に沿って整備され、消防団員の訓練出勤率においても高いレベルに位置しており、災害や救急活動時にその効果が表れていると思われる。また、消防団員の確保においては、年配者の退団がすすむなか、若年者の入団により若返りも図られてきており、災害現場活動の強化につながるものである。
③ 効率性	A	救急救命士による高度救急処置を行うために必要な研修や消防団員の訓練は、計画に沿って実施し、効率のよい災害現場活動や救急活動ができるようになり、資機材の購入についても、署内での検討会や各種制度を利用するなど、有効かつ効率的に購入し活用している。
④ 公平性	A	当施策は、すべての町民を対象としたものであり、町民が安心して暮らせる体制を整備することは公平である。
⑤ 町民意見の反映	A	町民によって組織されている消防団や、救急講習会等に参加された町民と意見交換等を行い、また、火災予防の一環として町民宅を訪問し、その際に出された意見等を参考に施策を進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
火災、救急、救助活動は消防業務の責務であり、また、適切な救急処置、応急救護知識、技術の普及、啓発、育成を目指す救急救命士の増員は救命率の向上につながり有効である。また、消防団においても町域の広い当町にとっては必要不可欠であり、これらを維持、拡充していくために当施策は有効と考え、安心して生活できる町づくりの一端として整備されつつある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
複雑多様化する各種災害に対処し、住民生活の安全確保を責務とする消防機関に対する期待も高まっていることから、さらなる消防力の充実強化が必要である。また、火災予防体制、救急高度化の推進と消防団員の確保、消防職団員の資質向上を図る必要がある。	同 左	

* 今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	70
基本施策	20	防犯・交通安全の推進	評価責任者	住民生活課長 淡路至尊
単位施策	1	防犯体制の強化		産業振興課長 横田和幸

1 施策の概要

基本方針	防犯灯・街路灯など防犯施設を充実するとともに、警察など関係機関と連携し、地域住民の協力を得ながら、地域ぐるみの防犯対策を進めます。また、消費者被害防止の体制づくりを進めます。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	多種多様化する犯罪に対し各団体と連携を図り、振り込め詐欺や防犯のチラシ配布など啓蒙・啓発運動を展開し、安全・安心な地域づくりに努めた。	25年度より29年度の5ヶ年で自治会内の防犯灯並びに街路灯についてLED化の整備を実施し、防犯設備の充実に取り組んでいる。また、防犯協会等各団体と連携し、各種犯罪防止に係る啓発活動を行った。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	凶悪で無差別な街頭犯罪や高齢弱者を狙った振り込め詐欺など、多様化する犯罪の防止に対し、地域ぐるみでの防犯体制の確立が必要である。	高齢者を狙った振り込め詐欺等の知能犯罪が爆発的に増加しており、本町でも高齢者の単身世帯が増えていることから、これらに対する何らかの対策が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	犯罪発生件数					
	定義等	町内の犯罪発生（認知）件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		10件	11件	7件	7件	0件
指標2	指標名	治安の満足度					
	定義等	まちづくりアンケート					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		57.4%				70%
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	興部地区防犯協会連合会運営事業	住民活動係	167	A	継続/現状維持	A
②	雄武町防犯協会補助事業	住民活動係	150	A	継続/現状維持	A
③	雄武町暴力追放運動推進協議会補助事業	住民活動係	45	A	継続/現状維持	A
④	消費者協会運営補助事業	商工観光係	200	A	継続/現状維持	A
⑤	【再掲】雄武町自治会連合会補助事業	住民活動係	250	A	継続/現状維持	A
⑥	【再掲】自治会運営補助事業	住民活動係	6,130	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	犯罪や暴力のない安全・安心に暮らせるまちづくりを町が中心となり担うことは当然である。
② 有効性	A	各関係団体と歩調を合わせ、啓発活動を行い、防犯意識の高揚を図った。
③ 効率性	A	警察や関係団体と連携し、経費を抑制しながら事業を展開している。
④ 公平性	A	全町を対象とした防犯活動に取り組んでおり、公平は保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場を設けてはいないが、各関係団体と協議をしながら防犯啓発に取り組んでいる。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であらぬ犯罪件数

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
目標である犯罪件数ゼロには届かなかったが、各種犯罪防止の啓発活動を実践し、町民の防犯意識の高揚図れたものと評価している。	同 左	

今後の方向性



継続/拡充	継続/拡充	
増加している振込め詐欺等の被害は、都市部に限らず地方にも拡大しており、これらに対する啓発活動や何らかの具体的な対策が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武		整理番号	71
基本施策	20	防犯・交通安全の推進	評 価 責 任 者	住民生活課長	淡路至尊
単位施策	2	交通安全対策の推進		建設水道課長	渡邊孝司

1 施策の概要

基本方針	警察や交通安全推進委員会・交通安全協会・交通指導員会など関係諸団体、家庭、学校、地域等と緊密な連絡体制を築き、交通安全教室などを通じた啓発活動や交通安全施設の整備を継続的に進めます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	各団体と連携を図りながら、地域ぐるみでの交通安全対策を実施し、交通事故発生件数の減少を図るための取り組みを行い、町民による死亡交通事故発生ゼロ3,000日を達成した。	各関係団体とともに交通事故防止の啓発活動や区画線塗装等の交通安全施設の整備に努め、27年2月24日に「死亡事故ゼロ1000日」を達成したが、同年3月24日に死亡事故が発生し、記録が途絶えたところである。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	車による観光通過車両が増え、これに伴う事故対策について道路管理者、警察等の関係機関との更なる連携強化が必要である。	全国交通安全運動等（6期60日）や各団体における様々な取り組みを行なっているが、なかなか交通事故は、減少しない。特に高齢者の死亡事故等に歯止めがかからない。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	交通事故発生件数					
	定義等	雄武町の交通事故（人身事故）発生件数					
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値		0件	0件	0件	0件	0件
実績値		4件	8件	1件	4件		
指標2	指標名	交通安全対策の満足度					
	定義等	まちづくりアンケート					
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						60%
実績値		46.9%					
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	交通安全対策特別交付金事業	住民活動係	1,320	A	継続/現状維持	A
②	興部地区交通安全協会連合会運営事業	住民活動係	858	A	継続/現状維持	A
③	雄武町交通安全推進委員会補助事業	住民活動係	538	A	継続/現状維持	A
④	雄武町交通安全協会補助金	住民活動係	150	A	継続/現状維持	A
⑤	道路区画線塗装事業	土木管理係	593	A	継続/現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	交通事故のないまちを目指すには町が先頭に立って、地域・職域・学校等を巻き込んでゆかなければならない。
② 有効性	A	交通安全に関する地道な啓蒙・啓発活動の継続が交通事故の減少に繋がるものである。
③ 効率性	A	各関係団体、交通指導員、警察などと連携しながら活動展開しており、人員、経費とも効率的である。
④ 公平性	A	全町民が交通事故に遭わない・引き起こさないことを目標としている。
⑤ 町民意見の反映	A	特に町民の意見を聞く場は設けていないが、有効と思われる意見・要望については、反映させている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
交通安全の啓蒙・啓発運動については、交通指導員を中心とし、街頭啓発、各小学校・保育所での青空教室、各老人クラブや中国人研修時の交通安全講和、夕方時のパトライト運動など様々な事業を展開したが、死亡事故が発生した。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
全国や北海道における交通事故死亡者は、年々減少しているが、高齢者が犠牲となる死亡事故は増加している。少子高齢化によりこれから増えてゆく高齢者に対する交通安全指導が重要となる。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	72
基本施策	21	情報通信網の整備・充実	評価責任者	総務課長 佐竹 邦夫
単位施策	1	地域情報化の推進		

1 施策の概要

基本方針	高度情報通信基盤を適切に保守管理していくとともに、情報通信技術の都度の進化にあわせて、必要な更新投資の実施を検討していきます。携帯電話のアンテナなど、民間の情報通信基盤についても、公益的インフラという観点から、災害対応など充実を働きかけていきます。また、町民が、高度情報通信基盤を有効に活用していただけるよう、情報教育を推進します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	地域間の情報格差を是正するべく光ブロードバンド環境が整備され、居住域の100%が利用可能エリアとなり、そのサービス加入者も目標を上回る597件となっています。また、情報基盤としてのテレビの地上デジタル化に伴う難視聴対策も施され、この解消が図られています。	地域間の情報格差を是正すべく整備した光ブロードバンドについては、加入者数が873件となっており、年々増加している背景には、町民の情報通信基盤への関心度が高まっているものと思われます。また、町公式ホームページについてもリニューアルを行い、スマートフォン対応などのアクセシビリティ対策により、さらなる情報通信基盤の有効活用を図っています。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	ITが町民生活や経済活動に浸透することが期待され、その可能性を最大限に活用するための将来展望として、地域情報化計画の策定による計画的な利活用策が課題となっています。	光ブロードバンドの加入者数の増加に伴い、さらなるサービスの充実に向け、地域情報化計画に基づく具体的な利活用策が課題となっています。また、災害時における情報発信基盤である携帯電話については、本町の通話エリアが100%ではないことから、災害対策として民間事業者へのさらなる働きかけを行い、100%を目指していく必要があります。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	地域情報化の満足度					
	定義等	携帯電話やインターネット環境の整備及びサービス提供に関する町民の満足度					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						25%
実績値		17.42%	未調査	未調査	未調査		
指標2	指標名	町ホームページのアクセス件数					
	定義等	町ホームページの年間アクセス件数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						150,000件
実績値		89,668件	102,215件	110,241件	141,283件		
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	光通信設備等運営事業	情報統計係	5,959	A	継続/現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	地域の情報化は、全町民への行政サービスの向上に直結するものであり、妥当である。
② 有効性	A	地域情報化推進の一環として、居住域すべてが光ブロードバンド環境が構築され、年々加入者が増加していることや町公式ホームページについてもリニューアルしてアクセス件数が増えていることは有効である。
③ 効率性	A	一連の整備では、国庫補助金を財源の一部としたほか、地上デジタル放送による難視聴地域の解消や光ブロードバンド加入者の増、町ホームページアクセス件数の増など情報通信が活用されていることは、効率的である。
④ 公平性	A	地域の別なく、すべての町民が地上デジタル放送のテレビ視聴が可能となり、光ブロードバンドサービスも隈なく享受され、町ホームページもリニューアルしたことで環境が構築されていることは、町民間の公平が確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	地域住民の要望を踏まえた施策であり、意見は反映されていると判断する。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
平成24年度に「雄武町地域情報化計画」を策定し、また、町内隈なく光ブロードバンド環境が構築されたことで加入者が増加、更に、ホームページをリニューアルしたことでアクセス件数も増加しているため、情報通信網の整備が充実してきている。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
同 左	同 左	
今後は、平成24年度に策定した「雄武町地域情報化計画」に基づき、IT活用をさらに推進するとともに、光ブロードバンドサービスを安定的に運用する必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	73
基本施策	21	情報通信網の整備・充実	評価 責任者	総務課長 佐竹 邦夫
単位施策	2	行政情報化の推進		住民生活課長 淡路 至尊

1 施策の概要

基本方針	雄武町公共ネットワーク（総合行政ネットワーク、地域公共ネットワーク）やその他の情報システムを適切に保守管理していくとともに、更新時等にあわせて、個別システムの連携や統合を進めていきます。また、平成26年度に予定されている社会保障カードの導入への対応を図るとともに、人工衛星を活用した地図情報の一元化（統合型GIS）、全国市町村での情報データの共有・管理（自治体クラウド）などの新技術の導入を検討していきます。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	町公共ネットワークや住民基本台帳ネットワークの整備、北海道電子自治体プラットフォーム構想の推進、総合行政ネットワークへの接続を進めるとともに、各種業務用システムの整備などにより、サービス水準の向上や業務の効率化に努めています。	ネットワークサーバの更新に伴い、仮想化技術を取り入れることで、機器の集約を図るとともに、今後更新を迎える各種業務用システムについても同様に機器の集約が可能となりました。また、北海道電子自治体プラットフォーム構想の推進、総合行政ネットワークの接続の継続、その他各種業務用システムの整備などで、サービス水準の向上や業務の効率化に努めています。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	住民基本台帳ネットワークや北海道電子自治体プラットフォーム構想において、サービスの拡充が進んでいないこと、及び各種システムの一元化を含めた効率化のための人材育成と体制整備が課題となっています。	業務の効率化を図るべく、各種業務システムの連携や統合が必要となり、また、平成28年1月から利用開始となる社会保障・税番号制度への対応や災害時における行政情報データの共有・管理（自治体クラウド）などの新技術への導入検討が急務となるほか、人材育成と体制整備が課題となっています。			

2 基本施策指標

指標 1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標 7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	北海道電子自治体プラットフォーム（HARP）推進事業	情報統計係	551	A	継続/現状維持	A
②	雄武町公共ネットワーク整備事業	情報統計係	15,875	A	継続/現状維持	A
③	情報管理一元化事業	情報統計係	12,538	A	継続/現状維持	A
④	戸籍総合システム事業	戸籍住民係	6,690	A	継続/現状維持	A
⑤	住民基本台帳ネットワークシステム事業	戸籍住民係	1,078	A	継続/現状維持	A
⑥	上下水道料金管理電算機更新導入事業	水道業務係	3,372	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	限られた財源、職員数のなかで、多様化・高度化・複雑化する行政ニーズに対応し、サービスの向上を図るためには、ITを効果的に活用することが必要であり、施策として妥当である。
② 有効性	A	既存の各種システム等は、行政の効率化や省力化、質の高い住民サービスにつながっており、有効に機能している。
③ 効率性	A	各種システム等の設置及びネットワーク化により、事務作業の効率化が図られている。また、物理的障害に対するバックアップ環境を構築したことで、不測の事態に対する事務の停滞を極力抑えることが期待できるようになった
④ 公平性	A	各種システム等は、サービス水準の向上を図るとともに、行政情報の提供手段として利活用され、その効果は町民に等しく還元されるものであり、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	B	議会議員や町民からの慎重な意見には随時応えているが、この施策に対する町民意見を求めたことはない。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
現在の行政情報化の推進状況において、各種システム等の効率的な活用により、行政事務の効率化と町民サービスの向上が図られている。	同 左	

今後の方向性

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	
各種業務システムの連携や統合、更には、社会保障・税番号制度への対応や災害時の行政情報データの共有・管理など新技術への導入の検討が必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止